



本機はH-D純正で、あたかもこんなモデルが存在していたかのような完成度を誇る。2012HCSでのV&V H-Dの製作も担当。



SURE SHOT

1942 FL

文・写真=津辺まこと text&photographs by MAKOTO WATANABE

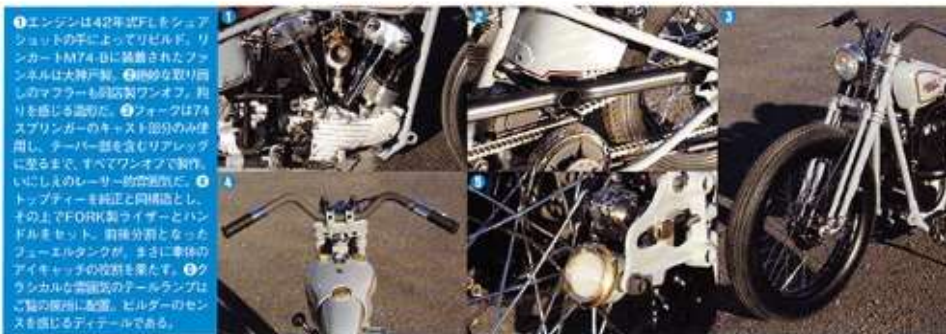
取材協力=シュアショット phone 043-445-0077 <http://www.sureshot.jp/>

ストックの面影を打ち消すのではなく、あくまでも素材であるH-Dの魅力を引き出す……数あるカスタムの中には、そんなアプローチで創られるものもあるが、ここに紹介するシュアショット製作の一台は、まさにその典型だろう。

たとえばH-Dという素材を生かすカスタムといえば、あくまでもライトメニューに留める類のものが主だろうが、しかし、このマシンに限ってはそうではない。V-TWINレプリカフレームに42年式ナックルを搭載し、旧き良き時代のレー-

サーの如く落ち着いた雰囲気を持ちながら、その実、随所にはビルダーの相川拓也の手による技巧が徹底して散りばめられている。たとえばメインとサブが分割となったタンクはもとより、キャスト部のみ純正を使用し、他の箇所すべてを再製作した細身のフロントフォーク。また一見すると純正ホースシューに見えながら、その実、薄い形状のオイルタンクやマフラーの取り回しなども友人なら唖される箇所だ。

素材であるH-Dへの敬意……それを感じる秀作である。



①エンジンは42年式FLをシュアショットの手によってリビルド。リンクカートM74-Bに装着されたファンネルは大神所製。②細身の取り回しのマフラーも同所製。取り回しを良くするために、③フォークは74スプリングのキースト部分のみ使用し、チューブ部を含むリアレットに至るまで、すべてワンオフで製作。いじり味のレーサー的雰囲気に、④トップチューブを純正と同構造とし、その上でFORK製ライザーとハンドルポスト、前後分岐となったフェニールタンクが、まさに車体のアイキャッチの役割を果たす。⑤クラシカルな雰囲気のテールランプは、⑥細身の取回しに配慮。ビルダーのセンスを感じるディテールである。